投稿

みんなの広場

テーマは私の宝物

子育て日記

小鍛冶明子（松浜新町、42歳）

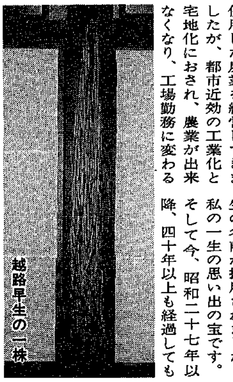
よだれを出しはじめたり、首がすわったころ、歯がはえはじめたり、つかまり立ちをしたり、風邪をひいてぐずついた夜や、「ンマ」と手をさし出した時期……などと、子供の成長を記したノートを大切に思っています。

夢中になって子供と接し、歩いてきた道のりはとても長かったようですが、なが－い人生の間の、ほんのわずかな期間です。チラシの裏を利用して書いた絵や、勤めに出ている私あてに書いた手紙(?)等も、ノートにはさんであるため、ぶあつくなっています。この子たちが新しい家庭を持つようになったら、プレゼントしようと思っています。自分の子育て時に読んでもらえれば幸いですが、全く記憶のない幼いころの"自分"を知ることができるんじゃないかと思っています。それよりなにより、一緒に過した私たちは、とっても幸せだったことを分かってもらえたらと、思っている、夢中子育て日記です。

越路早生

伊藤昇（新崎一、63歳）

私の宝物は、根のついた三十三年前の純粋な越路早生の一株です。その頃私の家は、小規模ながら多角経営を目標にして、水稲と野菜と畜産を併用した農業を経営してきましたが、都市近効の工業化と宅地化におされ、農業が出来なくなり、工場勤務に変わる前年度、今では、考えられない保温折衷苗代で健苗育成に務め、市の苗代品評会に二位入賞し、坪約四十株前後（今は七十株前後）の粗植で、無効分けつをおさえ有効分けつを完全に結実させて、一番多収だった物を、一株保管して現在に致りました。そして当時、今の雪の精のように、新潟県農試の並河博士の開発した、農林一号と農林二十二号を交配した新品種（生四十号）を新潟日報を通して新品種名を募集しました。私もそれに応募したところ、越路早生の名前が採用されました。私の一生の思い出の宝です。そして今、昭和二十七年以降、四十年以上も経過しても奨励品種の第一類として、こしひかりと共に、第一線の主食として全国にそのおいしさを提供している水稲越路早生の根株です。


越路早生の一株

一冊の本

石原桂子（西湊町、51歳）

宝物って、家族の歴史の収まっているアルバムも宝物。でも私には、もう一つ、表紙も古びてすり減ったこの本が、宝物です。

昭和二年に発刊された「日本童謡集」西条八十先生のたくさんの詩と共に、野口雨情、小川未明、若山牧水、薄田泣菫、三木露風、百田宗治、等々たくさんの有名な作家が書いた叙情的な素晴らしい詩は、また素晴らしい挿絵と相まって、子供だった私を、夢や空想の世界に大きく膨らみ、自分が体験しているような錯覚をおぼえながら、何十回も何百回も、読んだことでした。「山のおくの谷あいに綺麗なお菓子の家がある」で始まる"お菓子の家"、足にはかれて世界じゅうを旅する"靴の家"、"その夜の侍"、今、頁をめくると、子供のころの郷愁が、今も私の心をふるわせてくれる大切な一冊です。

写真

富士山登頂

関　哲　雄（寺尾上4、70歳）

わが輩は鋏(しざ)である

小林秀一（古湊町、76歳）

宝物、それはわが輩たることを自負してやまない。およそ鋏と申せばいかな高位高官、議員諸公、無位無冠の人等の頭髪（ヘアー）を丸角長短、天衣無縫にわが輩が駆（刈）ってこそ品性が美しく整えられるからである。

それもしわが輩がなかりせば髪（ヘアー）は蓬々（ぼうぼう）、髭（ひげ）はのび放題で果して人格が成るや否やである。

「天は人の上に人を……」とか。わが輩がひとたび頭上馳駆（ちく）すれば身分の別なく、平等にたちまち人品は整えられ輝くは必定である。

主人（チーフ）は閉店後、酒精（アルコール）とかに消毒して棚に収めると棚の中の女（ひと）が「お疲れ様でした」とねぎらってもらえるのが、わが輩はうれしかった。

ある日、主人は誤って彼女を床に落とし二つに折れた。主人はしばし彼女の遺骸を棚に収めていた。見てさびしかった。「ごめんね。私、こんな態になって」とわびてるようだった。

わが輩は主人に仕えて五十年。近ごろ主人は腎透析で入退院を繰り返し、月水金の通院で、消毒棚の中で閑々の哀れな態である。

辞世の詩

斉藤睦栄（鳥屋野一、62歳）

父が肝臓肝硬変で大学病院へ入院一カ月、病院近くに住んでいた私を呼んだ。「気分はどう」「今朝は気分が良いから字を書いてみた」と、気分がいいと言いながら目に涙を溜めている。「字なんか書いて体に触りでもしたら…」とっさに語尾をとがらせて言ってしまった。「いや、ほんの三行だけだから…」と、ベッドから降りて窓をのぞき、「家族の顔を見ながら青畳の上に療養したい」と言う。本人の希望ならと…。退院して座敷の戸を全部開け放ち「緑はいいなぁ…」の連続。三日後枕元に家族一人一人を呼んで語り掛け電報（危篤）を促す。自分の最期を見届けたかのように静かに息を引き取った。この春二十七回忌を迎えた五月十三日、遺品の手帳から三日前に僅か三行だけと言った辞世の詩が書き留めてあった。辞世の詩「子孫の安らかを思ひ永き夢路に着く事の出来るを喜こぶ　五月十日朝　孝太郎」みんなで涙した。あの三行が辞世の詩だったとは…。居間の額から毎日我が子を見守ってくれる辞世の詩こそ私の宝物である。

掛け時計

佐藤祐司（小針が丘、68歳）

私の宝物は、作詞した校歌が最優秀作品に選ばれ、副賞としてもらった壁掛け時計である。

U小学校がマンモス化し、分離して新しいN小学校が誕生した。校歌を一般から募集した。私は試しに応募したら僥倖（ぎょうこう）にも最優秀作品に採用された。作曲は演歌界の第一人者E氏に依頼した。

昭和五十四年二月一日、N小学校の校舎竣工式が行われた。その席上、私は校歌作詞の表彰状、感謝状二枚の額と壁掛け時計をいただいた。E氏は山口市から飛行機で駆けつけ式場で自らタクトを振られ、声高らかに校歌の一大斉唱になった。

時計は五十九㌢×四十四㌢の板上に電池式のものが取り付けてある。図柄は一九〇八年の外国製の自動車が描かれている。厚さが二㌢ある。

記念の掛け時計は居間の東南の壁面を飾っている。純心な児童たちが、入学式、始業式、運動会などの行事に、精一杯歌っていてくれることを思うと胸が熱くなる。

思い出写真

清水克子（女池三、33歳）

心の中に大切な宝物がたくさんしまってあります。美しかった風景、色、空気、風、雲に花々に木々、そして山々、湖、温泉、おいしかった食物、楽しかった日々、見知らぬ土地、人々の優しさ、愛いくつもの感動が積み重なった宝箱。美しい地球のかけがえのない贈り物に出合いに私は山を歩きます。さまざまな所に出かけて行きます。そして心いっぱいの感動をもらってきます。

今という時を一生懸命生きて、年をとったら思い出を食べて生きていけるようにと、辛い時、苦しい時、思い出が力づけてくれるようにと私は思い出貯金をしているのかもしれない。そんな感動が増えれば増えるほど物に対する執着はなくなってくるけれど、写真は思い出とともに大切な宝物です。

読書の一句

阿部佐保子（松浜五、69歳）

山紫水明の新潟に住んで四十有余年、それでも東京浅草に生まれ育ち、数々の思い出が深いがもう今日の浅草には昔の姿を見ることは難しくなってしまい、特に私が大事にしていた数々の思い出の品々は、戦災で皆焼失して残らない。

ただ一つ、父の書籍の中から和辻さんの"古寺巡礼"のみが偶然に手許に残された。本の山は黄ばみ、ローマ字でサインされた父のインクのみが懐しい。いつもどこでも手放さず読書をした父の姿が鮮明に思い出される。「本を読むことの大切さ」。今老いて、病に倒れ幸と死をとり止め回復に向う暇々に改めて読む機会を持てた幸せを感じる。

物は失われても心は失われることがない。このとしになって何度か開いたページの一駒一駒の感動が生きてくる。青春、戦争、結婚、貧困の人生の中で私を支えた読書の一句一行が力となったことを感じる。それが何よりの私の宝物かもしれません。

短歌

快晴の　空を彩る　熱気球
動き止めしか　稜線をはなれず

立川テイ（有明町）

孫

桑原久次（小針藤山、64歳）

朝七時、いつものように下の二歳の孫を抱いて散歩。町内のAさんが「朋子ちゃんはおじいちゃんの宝だね」と声をかけて下さる。私は幼児の頃、よく妹と祖父・祖母のお寺詣りのお供をした。「あんたとこの宝かな」同行のお年寄りからそれぞれに頭をなでてもらう。

今、同居で若い者は共働き、上の淳が五歳、昼間は一緒に保育園だが朝晩は私達二人の仕事。さわぐ、よごす、ひろげる、走る、こわす。けんかする、泣く、笑う。テレビ、絵本を見る。ゲームをする。雨天でも外で遊ぶ。おつきあいは大変。でも、かわいい。

夕方、母が帰る。父が帰る。競争で玄関へとび出す。「みんないい子だったかな」夕食時は、一日の生活を細かく報告してにぎやか。宝を傷つけずに終ってホッとする。

近頃、同級会の話題も子から孫に移った。年をとって生命の限界を感ずる。いつまでも命を残したい。地球上の生物として本能か。

多数の応募
ありがとう
ございました

鳥屋野潟を考える自然セミナー

日時　12月5日午後6時半～8時半
会場　鳥屋野地区公民館　**対象**　成人30人
内容　鳥屋野潟の植物と環境
申し込み　会場（☎285－2371）へ

クリスマスケーキ講習会

日時　12月20日午前10時～午後1時
会場　曽野木地区公民館
対象　婦人先着24人　**参加費**　500円
申し込み　会場（☎280－6810）へ

茶道教室

日時　12月11・18日、1月22・29日、2月12・19日午後1時半～3時半
会場　両川公民館
対象　婦人20人　**参加費**　1,000円
申し込み　会場（☎280－2511）へ

音楽文化会館会場

◙新潟ビオラ協会演奏会
日時　11月30日午後6時半開演
問い合わせ　岩本さん（☎379－3361）へ
◙ソプラノジョイントリサイタル
日時　12月7日午後7時開演
入場料　1,000円

クックパル料理教室

会場　北陸ガスガスホール
時間　午前10時半～午後1時
申し込み　きょう24日午前10時から会場（☎223－0495）へ

コース	月日	参加費	定員
家庭料理	12/2・9・16	3,090円	18人
酒の肴料理	12/6・13・20		
新潟のお正月料理	12/3・10・17	1,854円	17人
おもてなしパン・お菓子	12/7・14・21		13人

新大邦楽部定期演奏会

日時　11月30日午後5時半開演
会場　県民会館小ホール
入場料　400円（前売350円）
問い合わせ　水出さん（☎269－0729）へ

市高等職業訓練校会場

申し込み　会場（☎271－2535）へ
※月曜日休館
◙パソコン運用講座
日時　12月10日～19日毎週火・木曜日午後6時～9時
内容　MS-DOSの基礎知識、ファイルの上手な使い方、ほか
定員　先着20人　**受講料**　6,000円
◙表具技能教室
日時　12月7日午後1時～4時半
内容　障子・ふすまの張り替え、ほか
定員　50人　**受講料**　500円

NIFS講演会「東海と台湾と新潟」

日時　12月13日午後2時半～午後4時半
会場　新潟国際友好会館
講師　台北駐日事務所代表・許水徳さん
申し込み　12月7日までに神田さん（☎269－4011）へ

講演「日米構造協議のその後」

日時　11月30日午後2時～4時
会場　ホテル新潟
講師　東京経済大教授・木村立夫さん
問い合わせ　平石さん（☎228-2131）へ

外国料理に親しむつどい

日時　12月3・10日午前10時～午後1時
会場　西地区公民館
内容　エジプト料理
定員　16人　**材料費**　1回800円
申し込み　会場（☎261－0031）へ